

日中韓5大学連携による絵本読み聞かせプロジェクトのデザインと教師間の協働¹

澤邊裕子(宮城学院女子大学)、中川正臣(城西国際大学)、植村麻紀子(神田外語大学)、
青森剛(世明大学校)、劉星(北京理工大学珠海学院)

1. はじめに

2021年、日本、中国、韓国の5大学の学生たちが協働で絵本の翻訳と読み聞かせ会を行うプロジェクトに取り組んだ。読み聞かせ会は国内外の外国につながる子どもたちを対象とし、参加者の複言語・複文化を豊かに育み、多文化共生社会づくりに貢献することを目的として実施されたものである。

2. 絵本読み聞かせプロジェクトのデザイン

このプロジェクトは韓国語と日本語教育を専門とする学生たちの連携による絵本読み聞かせプロジェクト(中川・澤邊,2021)²を出発点としている。2021年度には日本の大学3校、韓国と中国の大学各1校のゼミナールやサークルから日本語専攻、韓国語専攻、中国語専攻、日本語教育専攻などの学生たち合計64名が参加した。出版社から許可を得た5冊の絵本を専攻する言語へと翻訳し、さらに、やさしい日本語版へとリライトを行ったうえで、それぞれの言語でオンラインの読み聞かせ会を企画し、2021年11月から12月にかけて全7回シリーズで開催した。学生たちは8つのグループに分かれ、複数の大学の学生が協働で読み聞かせ会のプログラム作りと当日の会の運営を行った。参加した子どもたちは日本、韓国、中国、ベトナムから延べ66名で、その大部分は外国につながる子どもたちであった。読み聞かせ会の終了後には、各大学で活動を振り返り、さらに5大学全体による学生と教師間で参加者アンケートをもとに活動を振り返った。

3. 異なるコミュニティ間の連携と教師たちの協働

2021年12月と2022年2月に5大学の教師(5名)による振り返りセッションを行い、プログラムを遂行するために各教師がどのような役割を果たしたかについてpadletを用いてコメントを出し、さらにKJ法を用いてカテゴリー化していった。その結果、「趣旨・意義の説明」「学外・学内広報」「読み聞かせ会に関する事前指導」「学生との振り返り」「進捗状況の確認と共有」「グループワークのサポート」「学外の人、モノ、コトとの連携」という教師の役割があったことが明らかとなった。さらに、このような役割は単独でというよりも、教師たちが随時情報を交換しながら協働的に果たしていたことも確認された。本発表では、各グループにおける具体的な協働のありようを報告しながら、協働プロジェクトにおける教師の役割と学生たちの主体的な活動を促すための今後の課題について述べていきたい。

以上

¹ 本研究は科学研究費補助金基盤研究(C)19K00917の助成を受けたものです。

² 中川正臣・澤邊裕子(2021)「社会参加のための翻訳を通じた新たな学びの可能性」外国語授業実践フォーラム第20回会合発表資料